

切妻屋根を組み合わせたフレンチスタイルの外観は青空が良く似合う。バイクガレージに加え、車2台がゆったり駐車できるガレージも完備。まるでショールームのように光輝く空間なら、大切な愛車もより格好良く映る。
(写真/SIBUSAWA STYLE)



ガレージにシャッターがないのは、人目が届かないよう奥に配したLDKの陽当たりを確保するため。カフェなどの店舗建築で多く見られる個性的な外壁材もポイント。
(写真/アカギホーム)



南と北、双方から出入りできるほか、キャデラックとコルベットを停めてもなお、ゆとりある広さ。邸内からの視線も届く、まさにご主人が夢見た「秘密基地」。
(写真/Hobby style角屋工業)



中2階の下に位置するガレージ。シャッターを付けず、外側の壁を開口にすることで床面積に含めなくても済む工夫をし、税金面での負担を軽減。暑い夏のバーベキュースペースとしては絶好の場所だ。
(写真/コンクスハウジング)



濡れ縁をイメージしたウッドデッキは洗面脱衣室に隣接しており、外干しスペースとしての機能も併せ持つ。
(写真/KANAUYA)



ガレージはスムーズにシャッターが開くオーバースライダー式。木目調の柄も、より存在感を発揮している。
(写真/大成住理)



スタイリッシュな片屋根のデザイン。コンパクトなバイクガレージは、ご主人の趣味空間も兼ねている。
(写真/中村住宅工業)

普通の平屋じゃ、つまらない!

毎日をより楽しく、
快適に暮らしたい方に向けた巻頭企画!



日を追うごとに高まる、平屋の人気ぶり。「階段や廊下のぶんも広く使える」「生活動線の短縮&水平移動」「住まい全体に目が届きやすく、家族のコミュニケーションもより深まる」「構造の安定&自由な家づくり」などメリットは数多い。とはいえ、「普通の平屋じゃ満足できない」という声が多いのも事実。確かに、せっかく建てるなら何かアイデアと工夫を凝らした、他にはないオンリーワンの平屋にしたいもの。そこで今回は、平屋にぴったりの「+αの空間」を厳選してご紹介。家族の理想をカタチにするためにも、ぜひお役立て下さい。

NO.1 +ガレージ

「大切な愛車を盗難や砂埃から守る」以外に、雨の日でも小さなお子さんの車の乗り降りが気兼ねなく行える点や、パントリー・玄関ホールと動線を繋げることで、買い物袋の持ち運びが手軽になるなど、何かとメリットの多いガレージ。さらに2階の重量を考慮しなくて済む平屋なら、憧れのツインガレージも夢ではありません。もはやガレージは「男の趣味」というイメージを払拭した、育児・家事・メンテナンス・収納といった視点でも家族をサポートしてくれる重要な空間と呼べるでしょう。



見た目のカッコ良さを、さらに高めるツインガレージ。大好きな犬と猫を横たわったウォールライトも、イルミネーションのように住まいを華やかに演出してくれる。
(写真/アーリーホーム)



施主が待ち望んだ「四角くて真っ白な、ビルトインガレージのある平屋」。赤褐色の溶岩石やドセラナといった、外観をより引き立てるエクステリアも目を引く。
(写真/マイホーム)



白と黒のツートンカラーをはじめ、家族の憩いの場となる中庭、そして愛車が2台、駐車できるガレージ。外観だけで幾つも挙げられる、豊かなオリジナリティが魅力。
(写真/オサキ)



室内の様子が外に漏れない、プライバシー重視のフォルム。家族だけの、ゆったりとした時間が過ぎていく上質な住まい。塗り壁ならではの優しい質感も◎。
(写真/ジョイホームデザイン)

NO.4 + 土間リビング

内と外を結ぶ半屋外的空間、また客人を気軽に招き入れられる場所として、以前の日本家屋では当たり前のように存在した「土間」。水や汚れに強く、炊事のための釜戸や作業場、農作物の保存場所など様々な役割を果たしていました。そんな「土間」を、現代のライフスタイルに合わせてリビングにレイアウトしたらどうなるか…。特にアウトドア派の方、必見です。



客人が気軽に入出入りできるよう、土間専用の扉を設置。テーブルと椅子が置けるほどの十分なスペースを確保しているため、昔の縁側のように近所の方が立ち寄り、茶をすすりながら世間話を楽しんでいく…そんなシーンが目に見えよう。(写真/興山建設)



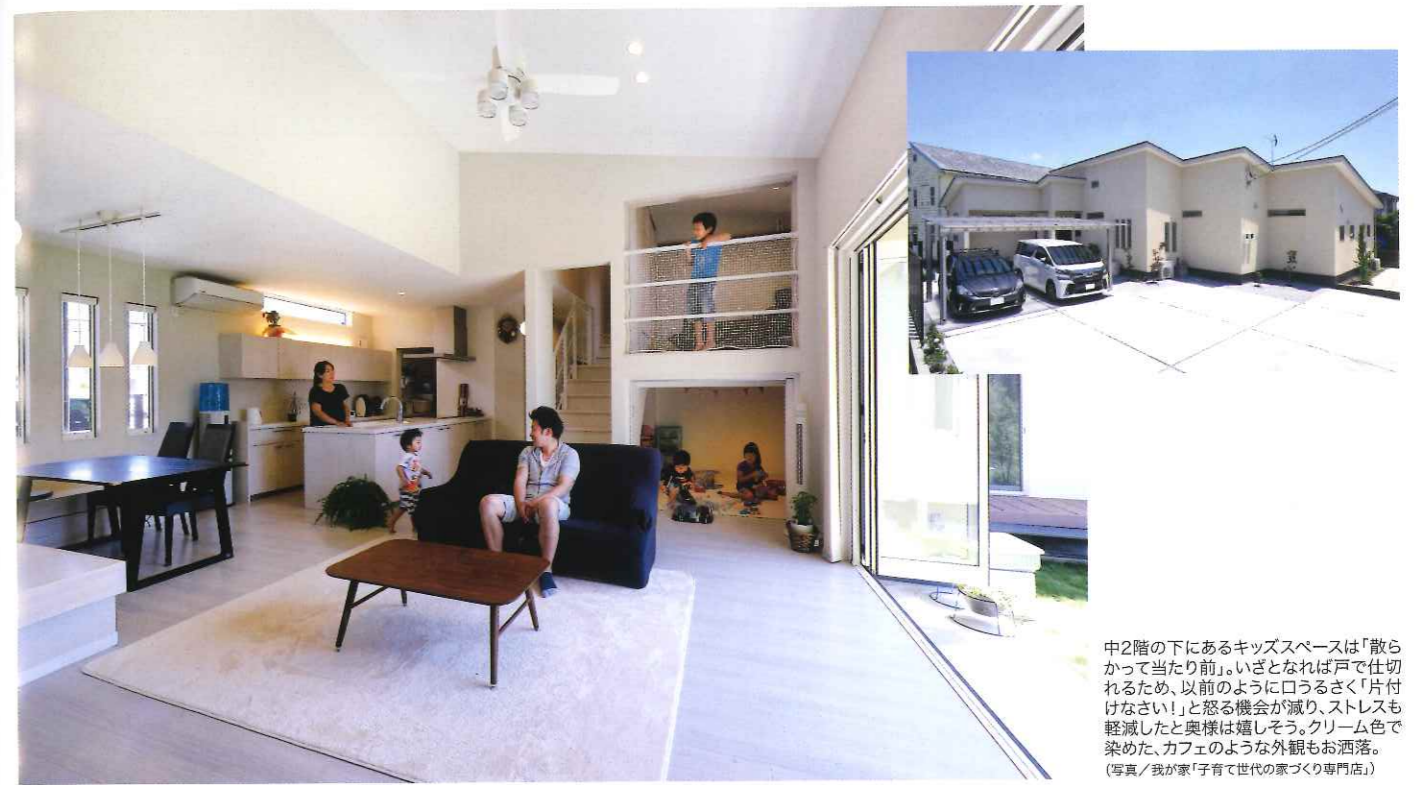
オープンデッキと繋がる土間リビング。昔の釜土のように、薪ストーブでピザを焼いたりシチューを煮込んだり…家族のコミュニケーションも深まるだろう。(写真/T's CASA 立見建設)



家の中心に配した薪ストーブは「ネスターマーティン」。木屑や汚れに配慮して段下がりにしたほか、隣接の和室は家族で鍋を囲んだり、客間としても重宝。(写真/群衆のいえ 群衆美装)



約40帖のLDKに馴染む、玄関から続く通り土間。ラグジュアリー感あふれる大理石調のフローリングは、意匠性だけでなく傷が付きにくい点など機能性も高い。(写真/アーリーホーム)



中2階の下にあるキッズスペースは「散らかって当たり前」。いざとなれば戸で仕切れるため、以前のように口うるさく「片付けなさい!」と怒る機会が減り、ストレスも軽減したと奥様は嬉しそう。クリーム色で染めた、カフェのような外観もお洒落。(写真/我が家「子育て世代の家づくり専門店」)



日光杉の無垢床や漆喰の塗り壁など、自然素材をふんだんに取り入れたスキップフロアの家は珍しい。造作が多いため、工務店の「決して手間暇を惜しまない」という姿勢が窺える。(写真/一歩先いく健康住宅 大連建設)



変化に富んだ天井高との繋がりを意識しながらも、しっかりゾーンを分けたLDK。中2階のフリースペースは「大人の隠れ家」に相応しく、さらにその上に小屋裏を設けた三層構造。(写真/icoochi)



中2階は子どもの宿題や読書に代表されるように、幅広い用途を可能にしたユーティリティスペース。姿は見えなくても声が掛け合えるため、家族の様子も把握しやすいだろう。(写真/ワコーハウジング)

